

エー・ディー・ワークス、系統用蓄電所事業拡大に向け 第 10 号・第 11 号開発用地及び系統接続権利の取得契約を締結

～運用開始を見据えた堅実な投資判断力によって、15 か所目標に対して着実に進捗～

株式会社 A D ワークスグループ（所在地：東京都千代田区、代表者：代表取締役社長 CEO 田中秀夫、以下「ADWG」）の子会社で、収益不動産事業を推進する株式会社エー・ディー・ワークス（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：鈴木俊也、以下「ADW」）は、第 10 号（栃木県日光市）及び第 11 号（長野県松本市）となる系統用蓄電所開発用地及び系統接続権利の取得契約を締結したことをお知らせいたします。これにより、2026 年中に累計 15 か所を確保する目標に対して、累計 11 か所まで進捗いたしました。

ADW は、市場形成期から系統用蓄電所事業に参入し、案件取得・運用開始の実績を蓄積しております。参入事業者が増加する昨今においても、継続的な案件情報の取得と運用開始を見据えた投資判断の精度向上によって、着実に事業を推進しております。

系統用蓄電所は、再生可能エネルギーの普及拡大に伴う需給変動を吸収する調整インフラとしての重要性が高まっており、近年では AI・データセンター等による電力需要の増加も見込まれる中、安定的な電力需給を支えるインフラとしての役割が一層期待されております。

当社は、本事業を社会課題解決に寄与する事業であるとともに、高い成長期待によって当社のビジョン（2034年に税前利益200億円）実現を後押しする新規事業として位置づけております。

1. 本件の概要

ADW は今回新たに、第 10 号（栃木県日光市）及び第 11 号（長野県松本市）の系統用蓄電所開発用地及び系統接続権利の取得契約を締結しました。今後、各用地における蓄電所の開発工事及び系統接続手続きを経て、2028 年に順次稼働開始を予定しています。

所在地	栃木県日光市
出力／容量	約 2 MW／約 8 MWh
稼働開始時期	2028 年 1 月（予定）

所在地	長野県松本市
出力／容量	約 2 MW／約 8 MWh
稼働開始時期	2028 年 1 月（予定）

※稼働開始時期は、工事進捗、系統接続手続きその他の状況により変動する可能性があります。

※第 10 号（栃木県日光市）は、系統連系に係る工事等諸条件の確定を停止条件としております。

2. 参入事業者増加の環境においても、継続的かつ堅実な案件取得を推進

ADW は、これまでに累計 11 か所（本リリースの 2 か所を含む）の開発用地を取得し、うち 2 か所が稼働開始しており、運用実績の蓄積が進んでおります。

系統用蓄電所市場では、参入事業者の増加に伴い、系統接続権利の確保や適地取得が難化する傾向が見られます。ADW は蓄積した実績により、案件情報ネットワークの拡大と、運用開始の実現性を見据えた投資判断の精度向上を進めており、参入事業者が増加する市場環境においても継続的な案件取得を実現しております。

今後も、現在開発・稼働を予定している他の蓄電所の運用開始を推進することで、さらなる実績の蓄積と収益機会の拡大を推進し、中長期的な成長事業として取り組んでまいります。

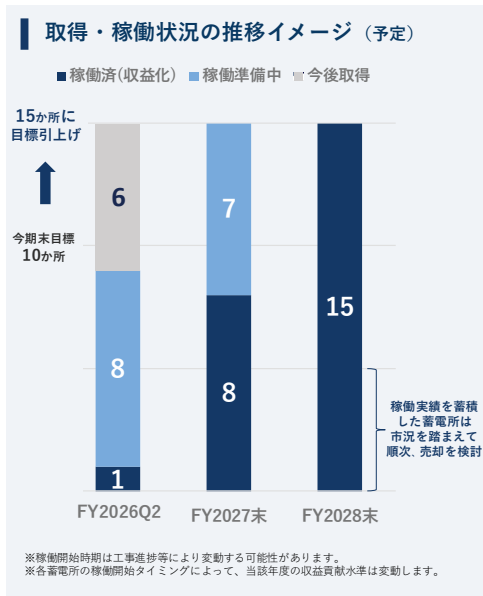
【系統用蓄電所の取得・稼働状況の推移並びに収益獲得（当社試算）のイメージ】

（2026年8月6日付「2026年12月期第2四半期 決算説明資料」より抜粋）

02 成長戦略の進捗 | 系統用蓄電所事業 追加取得を決定し、収益機会の拡大へ



Q2に6か所の蓄電所開発用地を取得し、累計9か所に到達。6月より1号蓄電所が本格運用開始。
新たに5か所の追加投資を決定し、15か所確保を目指す。収益機会拡大に向けて機動的に資金を投下。



収益獲得イメージ（当社試算）

市場の安定・成熟に応じて、市場運用と売却を組み合わせる

電力市場での運用による継続的な運用収益（※1）
稼働地点の積み上げに伴い、収益は段階的に拡大

想定運用収益 約 **8～13** 億円/年
(減価償却前) (稼働済蓄電所を年平均11か所保有した想定で試算)

市場環境に応じた蓄電所の売却と資産回転（※2）
売却により価値を顕在化。回収資金を次の案件へ再投資

想定含み益 約 **17** 億円
(稼働済蓄電所を15か所保有した想定で試算)

※1 稼働済蓄電所を年平均11か所保有（取得・工事進捗・売却等を考慮）し、11か所すべてが、稼働済の「ADW三重松阪市蓄電所」と同等水準の投資規模・設備仕様で過年稼働したと仮定した試算。「ADW三重松阪市蓄電所」の運用実績を基礎に、需給調整市場の取引価格水準について複数の仮定を置いた運用収入から運営費用を控除して算定。本試算は、収益の上限・下限または業績予想を示すものではなく、今後の制度変更、市場環境、各蓄電所の稼働状況等により、実際の運用収益は大きく異なる可能性があります。

なお、本試算は、稼働時期が異なる各蓄電所の運用段階における収益性を共通の基準で補足的に示すため、減価償却費控除前で表示しています。現時点で、蓄電所設備は固定資産として計上し、主として定率法で減価償却しております。そのため、減価償却費は稼働初期に大きく、保有期間の経過に伴い減減するほか、各地点の稼働時期により各期の計上額が変動します。

※2 本資料における「想定含み益」は、「ADW三重松阪市蓄電所」の鑑定評価額と1プロジェクトあたりの想定投資額（「ADW三重松阪市蓄電所」と同等の投資規模・設備仕様となる前提）との差額を基礎として、1プロジェクトあたりの「想定含み益」を保守的に試算し、それが15か所に生じると仮定した当社試算です。稼働済蓄電所を除く14か所は鑑定評価を取得しておらず、本試算は会計上認識された利益または会計上の含み益を示すものではありません。また、将来の評価額、売却価格、売却可能性または売却益の発生・実現を示すものでも、保証するものではありません。

(C) 2026 ADWorks Group Co., Ltd.

10

以上

本件に関するお問い合わせ：株式会社 AD ワークスグループ IR 担当

E-mail : ir@re-adworks.com

系統用蓄電所事業の成長戦略

— 高成長が見込める新たな事業基盤の構築へ —

早期参入による案件取得・ノウハウ蓄積を通じて、
成長市場における競争力を強化
年内10か所確保の目標に対して、累計6か所まで進捗

2026年6月15日

株式会社ADワークスグループ

代表取締役社長CEO 田中秀夫

(コード番号：東証プライム2982)

高い収益性が期待できる成長市場に早期参入し、実績蓄積による競争力強化の好循環が加速。
中長期的な利益貢献が見込まれる新たな成長事業として注力。

高成長を見込む蓄電所ビジネス市場

(参照：p.3, 8~10)

- 1 蓄電所ビジネス市場規模は6年間で約10倍予測
2024年度：450億円→2030年度：4,240億円(※)
- 2 再エネ普及を促進する国策が成長を後押し
- 3 市場形成期であり稼働済み蓄電所は限定的

※出典：株式会社矢野経済研究所「蓄電所ビジネス市場に関する調査（2025年）」
（2026年1月20日発表）（事業者収入ベース）

早期参入による競争力強化の好循環

(参照：p.4~5)

- 1 用地仕入力・権利調整力を活かした早期参入
- 2 優良案件の選別・仕入機会の増加
- 3 事業ノウハウの早期蓄積
- 4 事業パートナーとの強固な関係構築



市場フェーズに応じた成長戦略

(参照：p.6)

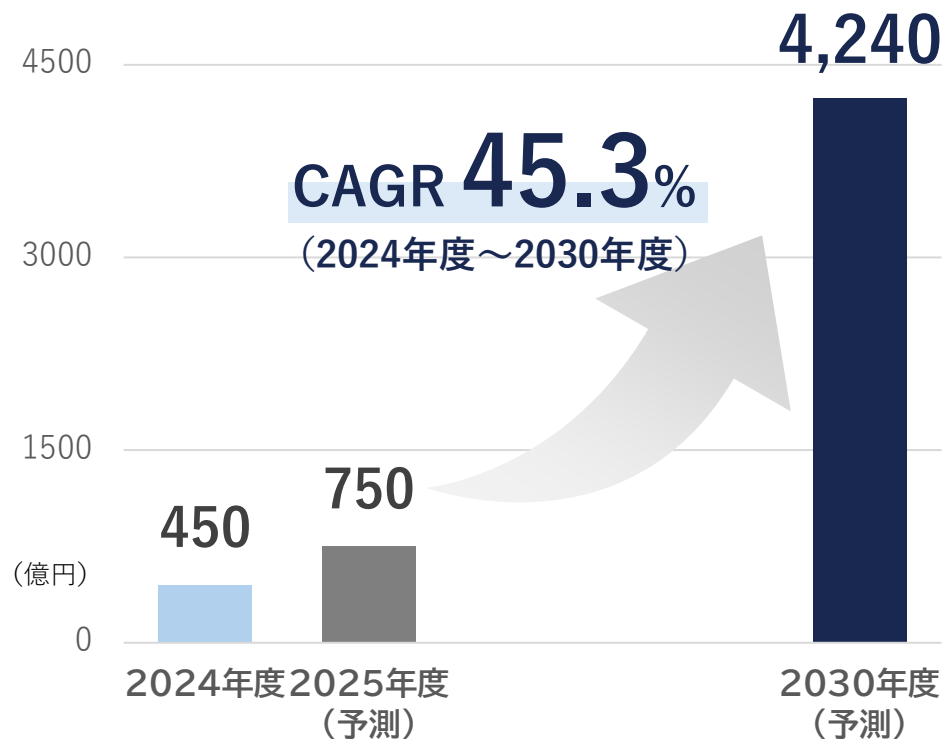
市場形成期は高い運用収益を獲得。市場の成長段階に合わせて、売却収益とフィー収益獲得に展開。
獲得した競争力を維持しながら、収益の多層化と資本効率の向上を目指す。

1. 再エネ普及に伴い需要拡大を見込む成長市場

- 蓄電所ビジネスの国内市場規模は、2030年度に4,240億円程度まで拡大が予測される成長市場。
- 再生可能エネルギーの普及・拡大に不可欠なインフラとして蓄電所の導入は拡大していく見込み。

※p.8参照

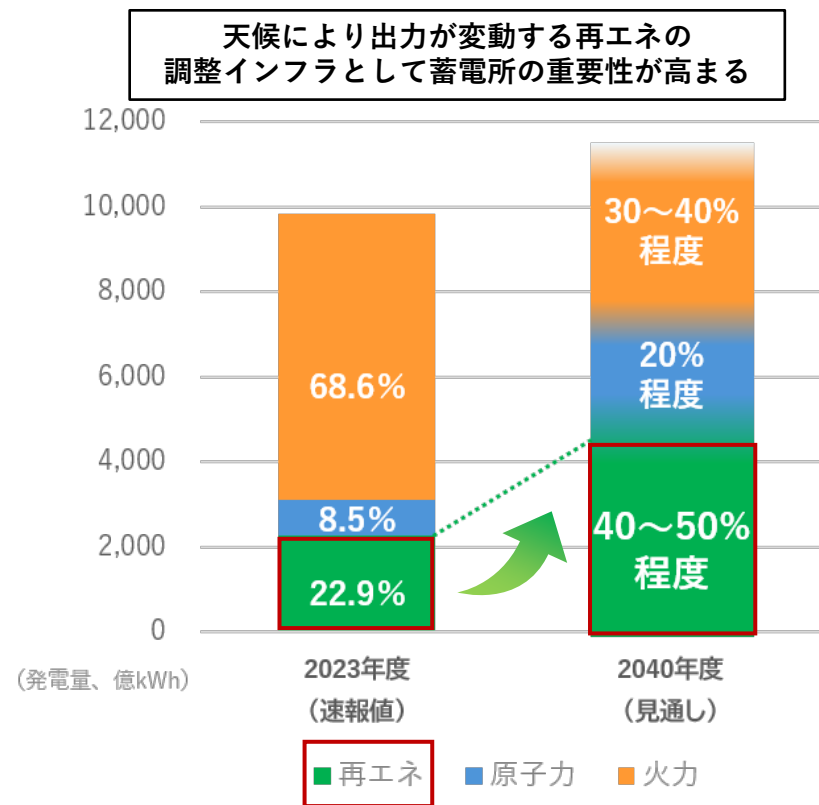
蓄電所ビジネス市場規模予測



※事業者収入ベース

出典：株式会社矢野経済研究所「蓄電所ビジネス市場に関する調査（2025年）」
（2026年1月20日発表）より当社作成。CAGRは当社算定。

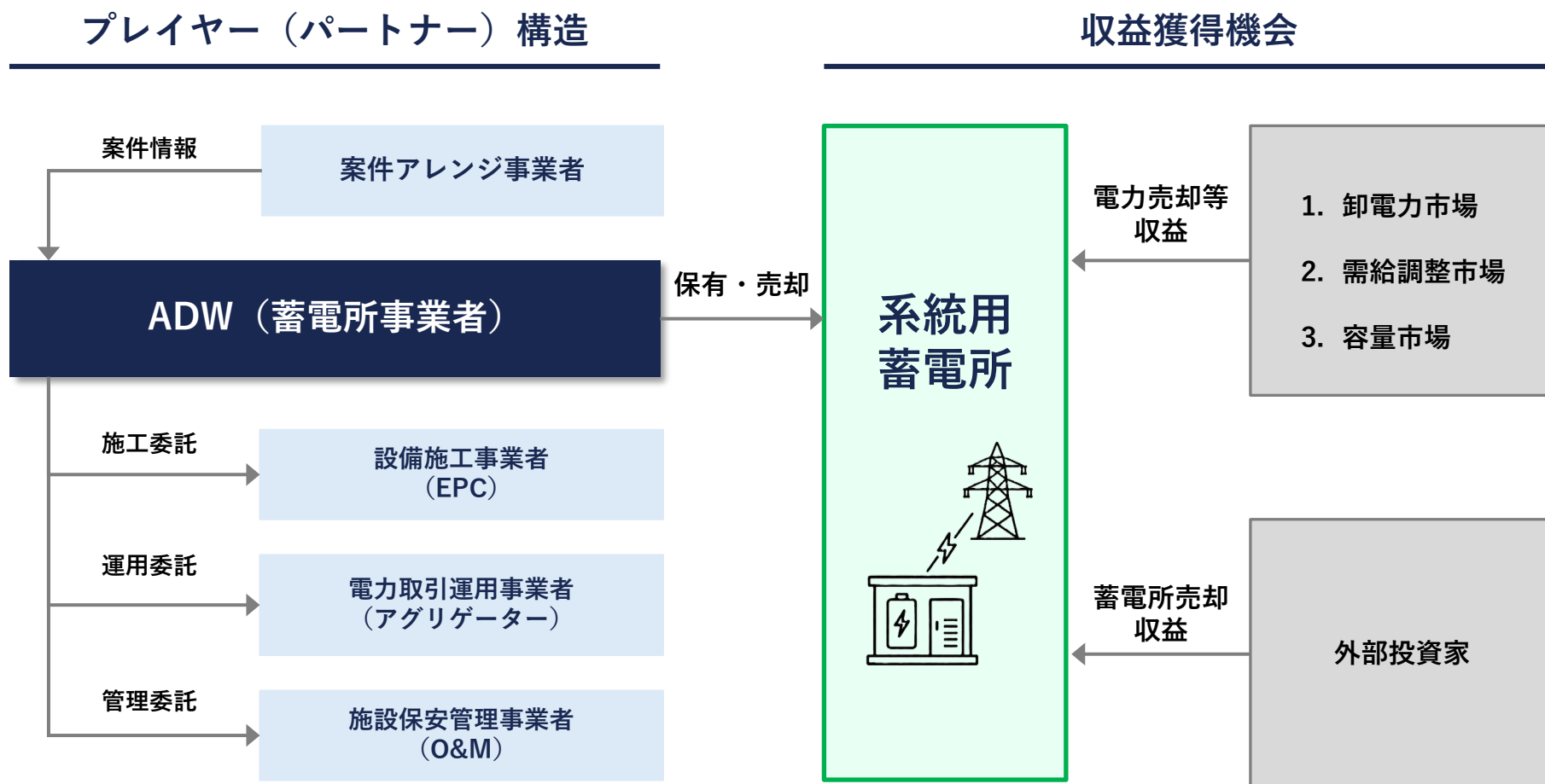
国内エネルギーミックスの見通し



出典：エネルギー庁「第7次エネルギー基本計画の概要」（2025年2月）より当社作成

2. 当社のポジションと事業スキーム

- 各プレイヤーと連携し、案件の発掘・蓄電所の設置施工・電力取引運用を推進し、蓄電所を運用。
- 複数の電力市場での運用や、蓄電所の売却による多様な収益機会の獲得を企図。



3. 早期参入により競争力強化の好循環を創出

- 既存事業のコアスキルを活用し、高い収益性が期待できる成長市場の形成期に早期参入し着実に推進。
- 早期の仕入実績・ノウハウ蓄積・パートナーシップ構築が、競争力強化を促進する好循環を形成。



4. 蓄電所市場フェーズに応じた成長戦略

- 市場形成期から成長初期には、自社保有による高い運用収益を獲得しつつ、事業規模の拡大を推進。
- 市場の安定成長期には、外部投資家への売却益やAMフィー収益による収益機会の多層化と資本効率向上を目指す。

市場 形成期

Step 1 | 運用実績の蓄積

早期参入によって強化した競争力を活かして継続的に用地取得・開発を推進。

運用実績・事業ノウハウの蓄積を加速させるとともに、高い運用収益を着実に獲得。

運用収益

市場 成長初期

Step 2 | 事業規模の拡大

蓄積した事業実績やノウハウを活用した共同事業や開発支援フィービジネスを推進。
事業機会を増やし、収益規模を拡大。

開発支援フィー収益（ノンアセット）

運用収益

市場 安定成長期

Step 3 | 収益多層化・資本効率向上

投資家やファンド等の需要の広がりを見極め、蓄電所の自社保有と売却を機動的に判断。
売却後のアセットマネジメント受託も視野に、収益機会の多層化と資本効率向上を目指す。

蓄電所 売却収益

AMフィー収益（ノンアセット）

開発支援フィー収益（ノンアセット）

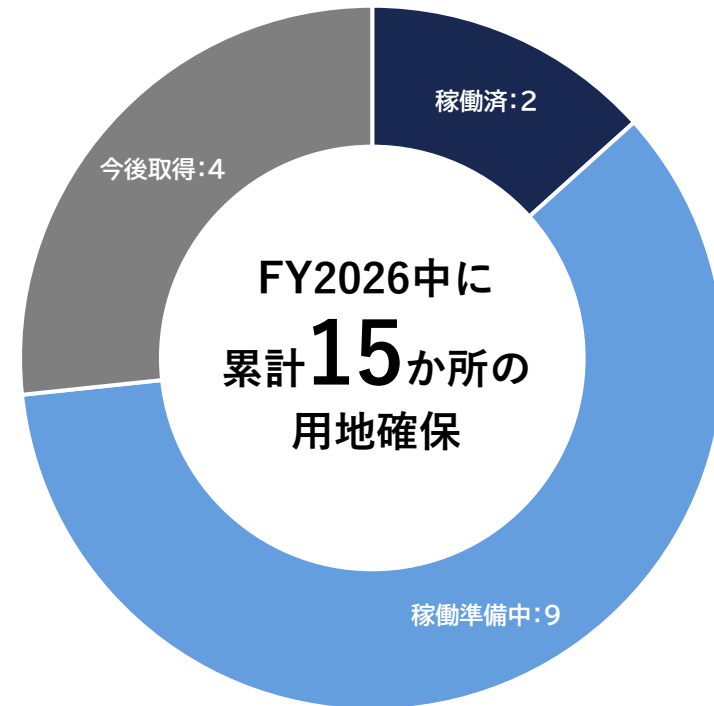
運用収益

※図はイメージであり、各収益の規模・比率を示すものではありません。

5. 蓄電所保有状況／用地取得状況

- 2026年中に15か所の蓄電所（用地含む）を確保する目標。累計11か所を確保済み（2か所稼働済み）。
- 累計出力約22MW、容量約88MWh分の系統用蓄電所パイプライン（稼働済含む）を構築。

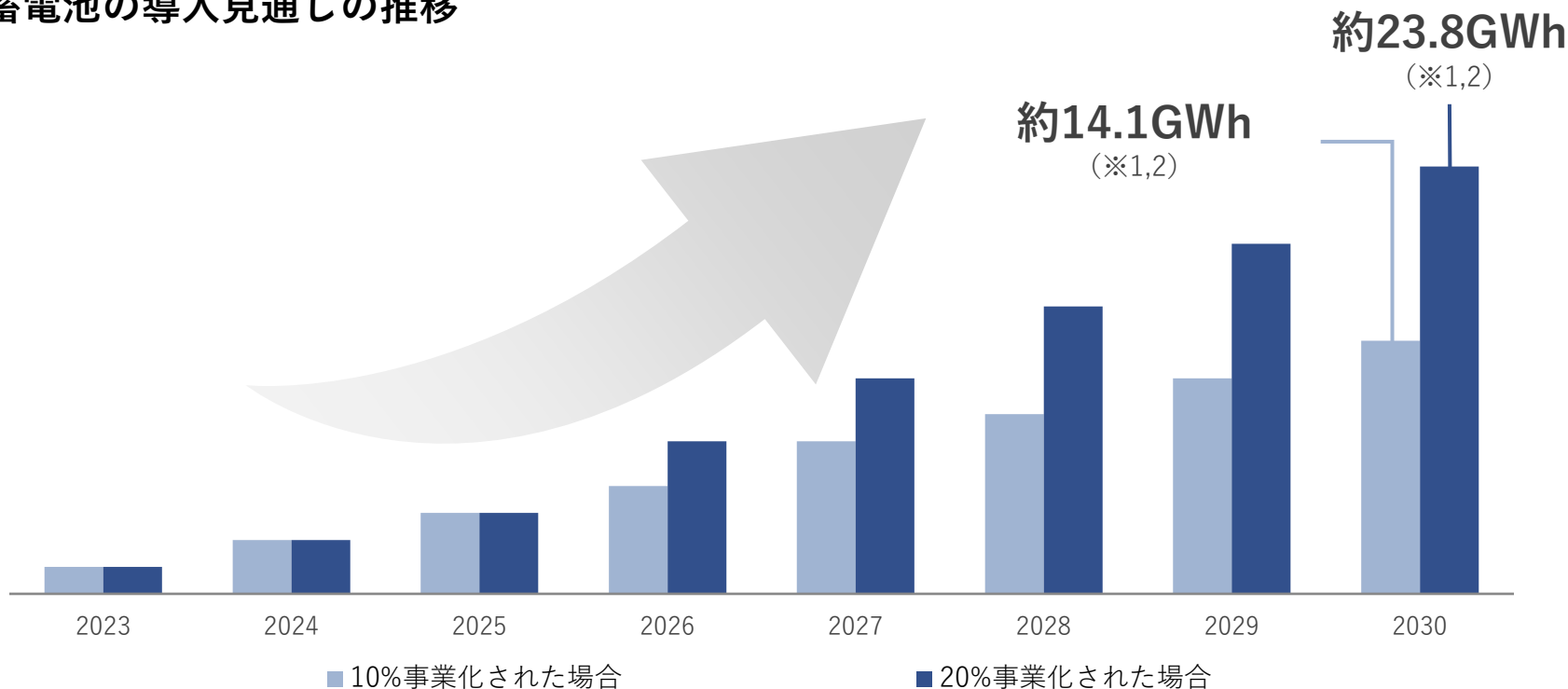
	所在地	出力／容量	ステータス
1号	三重県松阪市	約2MW／約8MWh	稼働済み (需給調整市場参入済み)
2号	熊本県益城町	約2MW／約8MWh	稼働済み (2026年11月末頃 需給調整市場 参入予定)
3号	鹿児島県鹿児島市	約2MW／約8MWh	稼働準備中 (2027年稼働予定)
4号	熊本県熊本市	約2MW／約8MWh	稼働準備中 (2027年稼働予定)
5号	宮崎県日南市	約2MW／約8MWh	稼働準備中 (2026年稼働予定)
6号	三重県多気町	約2MW／約8MWh	稼働準備中 (2027年稼働予定)
7号	佐賀県伊万里市	約2MW／約8MWh	稼働準備中 (2028年稼働予定)
8号	栃木県日光市	約2MW／約8MWh	稼働準備中 (2027年稼働予定)
9号	愛知県東浦町	約2MW／約8MWh	稼働準備中 (2028年稼働予定)
10号	栃木県日光市	約2MW／約8MWh	稼働準備中 (2028年稼働予定)
11号	長野県松本市	約2MW／約8MWh	稼働準備中 (2028年稼働予定)
12～15号	年内取得に向けて推進		



※8号及び10号に係る取得契約は、系統連系に係る工事等諸条件の確定を停止条件としております。

- 再生可能エネルギーの普及・拡大に不可欠な「需給変動を吸収する調整インフラ」として、系統用蓄電所の重要性が高まっており、中長期的に蓄電所の導入は拡大していく見込み

■ 系統用蓄電池の導入見通しの推移



※1 「接続検討申込」から「契約申込」への移行率について、2023年5月末時点の実績を踏まえ10%ケースを設定。また、今後の蓄電池コスト低減等により事業化確度が高まる場合として、太陽光・陸上風力並みの20%ケースも想定。

※2 「契約申込」から「実際に稼働」への移行率について、第6次エネルギー基本計画検討時の陸上風力発電の導入見込み等を参照し、約70%と仮定

出典：「分野別投資戦略について③（蓄電池・自動車、SAF・航空機、船舶、資源循環）」内閣官房GX実行推進室（2023年11月8日）より当社作成。注釈は当社要約。

- 接続検討申込が急増する一方、実際に連系・稼働に至っている蓄電池は0.17%(2025年6月末時点)。
- 当社は1号案件で既に連系・稼働実績を有しており、他案件の開発・運用開始も順次推進。

※連系：一般送配電事業者等の電気系統への接続が完了し、充放電可能な状態。

■ 系統用蓄電池の受付状況（2025年6月末時点）

※集計対象は各手続段階の高压以上（特別高压を含む）の蓄電池について集計。

接続検討受付
(系統接続可否の確認)
※すべてが系統接続に至るものではない

約14,322万kW

接続契約申込み
(正式な接続手続段階)

約1,780万kW

系統接続済み
(運用可能)

約25万kW

系統接続済みの蓄電池は
接続検討受付数の**0.17%**

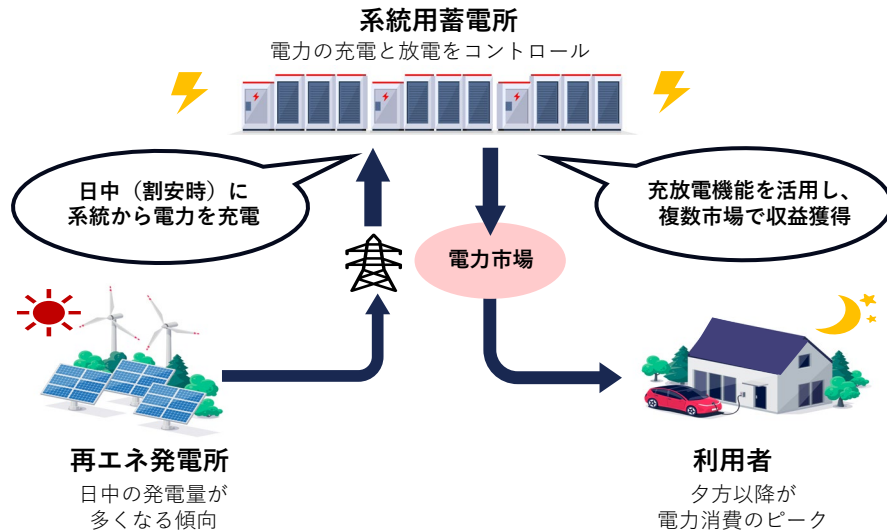
出典：「系統用蓄電池の迅速な系統連系に向けて」資源エネルギー庁（2025年9月24日）より当社作成

- 電力の価格差を利用した収益獲得（卸電力市場）の他、需給バランス調整力の提供（需給調整市場）や将来の供給力提供（容量市場）を組み合わせ、複数の収益機会を追求。

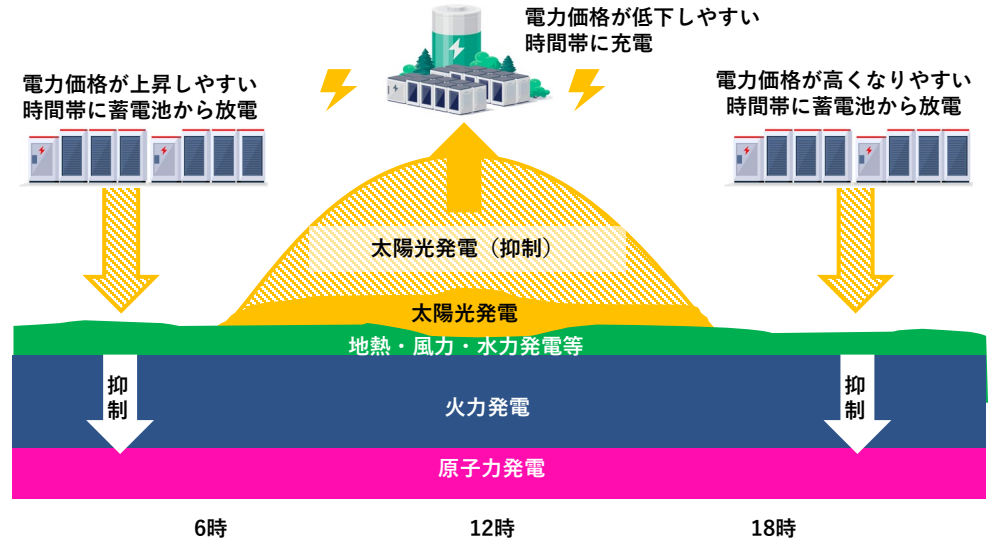
電力市場種別	蓄電池の役割と収益機会
卸電力市場	価格が低い時間帯に充電、高い時間帯に放電（価格差収益）
需給調整市場	電力の過不足を調整するため、必要に応じて充放電（調整力収益）
容量市場	将来の供給力として待機・供出可能な能力を提供（容量収入）

3つの市場で運用し
収益を獲得

系統用蓄電所の役割（充電・放電）イメージ



1日の電力需要と充電・放電イメージ



本資料に関する注意

本資料は当社グループについてご理解いただくために作成したものであり、当社への投資勧誘を目的としておりません。また、本資料に含まれる将来の見通しに関する部分は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、さまざまな要因の変化等により、これらの見通しと異なる場合がありますことをご了承ください。

当社はグループ全体の経営目標を「計画」として公表いたします。当社の「計画」は経営として目指すターゲットであり、確度の高い情報等をもとに合理的に算出された「予測値・見通し」とは異なるものであります。本資料に記載されたデータには、当社が信頼に足りかつ正確であると判断した公開情報の引用が含まれておりますが、当社がその内容の正確性・確実性を保証するものではありません。

お問い合わせ先

株式会社ADワークスグループ 経営戦略・IR統括部



ir@re-adworks.com



03-5251-7641